

「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2025 年 4 月 13 日 (日) 13 時～15 時半	天候	晴れ	歴史文化チーム定期活動 はぐくみセンター	
案内団体または催事名	歴史文化チーム定期活動 第 10 回目			人数	大人： 16 名 子供： 名

(敬称略)

出席者：久賀田、豊田、村上、吉川、義田、木邨、玉尾洋、中澤、山口、池田、奥山、北川、嶋田、寺尾、山岡、玉尾ひ

実施内容：13 時～15 時 30 分
座学

★第 3 章遷都始動、興福寺

- ・興福寺の整備は早く、遷都された 710 年にはすでに中金堂の建設が始まっていた。薬師寺や元興寺などの諸大寺が平城京に移ったのは 718 年だから、興福寺の開創の早さは際どっている。
- ・藤原家の氏寺であるが、天皇、皇后が建設に関わっている。当初から伽藍全体の造営計画に沿って建立されていない。長い時間をかけて、それぞれの時期に建設計画を重ねながら伽藍が形成されてきたからこそ、このような配置になった。
- ・北円堂・・・出組がなくシンプルだ。なぜ横に広がらないのだろうか？円堂では隅木の数が多く、屋根を構成する上で、組物で隅木を支えることが重要だ。そして柱筋より外には丸桁を出さないため、組物を持ちだす必要がない。また尾垂木もない。なぜそんなことができるのか？！ポイントは垂木で二軒ではなく三軒で、支えている。三軒は天皇に関連する建物にのみ見られる限られた方法。また大仏様と禅宗様の技法が見られる。
- ・南円堂・・・北円堂と同じく八角円堂だが、建物自体は魅力がない。しかし中金堂と同時期に焼失したが、中金堂より先に再建された。藤原家の北家のゆかりの堂ではあるが、それ以上の理由が、「観音信仰の札所」であったことだ。南円堂は西国三十三か所巡りの第九番札所として信仰を集めていた。この参詣は寺院の財政基盤にも影響を与えた。民衆による浄財が寺院の経済に大きな役割を占めるようになった。

- 次回 5 月 11 日 13 時 ならまちセンター
P. 152 五重塔～

(気になった点、引継ぎ事項)

配布先：代表、副代表、事務局長、リーダー全員、担当班長、会計